

Ⅱ これまでのキャリア教育推進関係資料

【 文部科学省・国立教育政策研究所 報告書等 】

小 目 次

- 1 「自分に気付き、未来を築くキャリア教育—小学校におけるキャリア教育推進のために—」 …… 413
平成 21 年 3 月 国立教育政策研究所生徒指導研究センター
http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/syoukyari/shougakkou_panfu.htm
- 2 「自分と社会をつなぎ、未来を拓くキャリア教育—中学校におけるキャリア教育推進のために—」 …… 423
平成 21 年 11 月 国立教育政策研究所生徒指導研究センター
http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/21chuugaku.career/chuugakkou_panfu.htm
- 3 「自分を社会に生かし、自立を目指すキャリア教育—高等学校におけるキャリア教育推進のために—」 …… 433
平成 22 年 2 月 国立教育政策研究所生徒指導研究センター
http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/21%20koukou.career/koukou_panfu.htm
- 4 「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議（報告書）」（本文・骨子） …… 443
平成 16 年 1 月 文部科学省
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/023/toushin/04012801.htm
- 5 「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について（調査研究報告書）」（本文・概要） …… 469
平成 14 年 11 月 国立教育政策研究所生徒指導研究センター
<http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/sinro/sinro.htm>
- 6 「職業教育及び進路指導に関する基礎的研究」（最終報告） …… 503
平成 10 年 3 月 文部省委託調査研究



自分
未来
キャリア教育

に
を
ア

気
築
教

付
く
育

き、

小学校におけるキャリア教育推進のために



国立教育政策研究所生徒指導研究センター 平成21年3月

自分に気付き、未来を築くキャリア教育

— 教育活動をキャリア教育の視点でとらえ直し、系統的にキャリア教育に取り組み、進路の選択・探求にかかわる基盤を形成する —

キャリア教育が目指すもの

- ▶ 一人一人のキャリア発達を支援します
- ▶ 学ぶことや働くこと、生きることの尊さを実感させ、学ぶ意欲を向上させます
- ▶ 将来の社会的自立・職業的自立の基盤となる資質・能力・態度を育てます
- ▶ 望ましい動労観・職業観を育てます

キャリア教育の定義

キャリア教育は「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」と定義され、端的には「児童生徒一人一人の動労観、職業観を育てる教育」とも言われています

高学年



苦手なことや初めて経験することに失敗を恐れず取り組み、そのことが集団の中で役立つ喜びや自分への自信につながるようにする

中学年



友達のおよさを認め、協力して活動する中で、自分の持ち味や役割を自覚できるようにする

低学年



自分の好きなこと、得意なこと、できることを増やし、様々な活動への興味・関心を高めながら意欲と自信を持って活動できるようにする

小学校におけるキャリア教育の目標

- ▶ 自己及び他者への積極的関心の形成・発展
- ▶ 身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上
- ▶ 夢や希望、憧れる自己イメージの獲得
- ▶ 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成

キーワード「キャリア」

「キャリア」の語源

「キャリア」(career)は中世ラテン語の「専攻」とし、英語で、職業や就労場におけるコースやそのトラック(行路、足跡)を意味するものであった。そこから、入社などを行うことや足跡、経歴、履歴なども意味するようになり、このほか、特別な訓練を受ける職業や生涯の仕事、職業上の出世や成功をも表すようになった。(中略)
なお、運搬子の保革者、伝送線の保革者などを指す「キャリア」(carrier)は、運ぶ(carry)からの派生語であり、運ぶ経歴の単語である。

(厚生労働省「キャリア形成を支援する労働政策研究会」報告書(平成14年7月)より)

「キャリア」の定義

個人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連続及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積

「キャリア」とは、一般に生涯にわたる経歴、専門的技術を要する職業についてのことなどが、解釈、意味付けは多様であるが、その中にも共通する概念と意味がある。それは、「キャリア」が、「個人」と「働くこと」との関係の上に成立する概念であり、個人から切り離して考えられないことである。また、「働くこと」については、職業生活以外にも家事や学校での活動、あるいは、ボランティア活動などの多様な活動があることなどから、個人がその学校生活、職業生活、家庭生活、市民生活等のすべての生活の中で経験する様々な立場や役割を遂行する活動として幅広くとらえる必要がある。

(文部科学省「小学校・中学校・高等学校キャリア教育推進の手引き」(平成18年11月)より)

▶ 014年度の「キャリア」とは何ですか? どのようにして進めよう?

事例に学ぼう ―小学校におけるキャリア教育の豊かな可能性―

キャリア教育の
実践例

掲載事例は、国立教育政策研究所生涯学習センター「キャリア教育実践活動事例集」第1分冊（平20年）から一部抜粋し、文章等を部分的に変更したものです。

神奈川県立宿川小学校

キャリア教育の観点からの様々な教育活動の見直しと、地元商店街との連携による体系的な実践

1年生 学校ではたらく人、おしえてあげる
(生活科 10時間)

学校生活に慣れた9月、学校で働く人々に、そして、グループごとに分かったことを発表するための学習を計画した。用務員、事務職員、給食調理員、茶室士、養護教諭などに、どんな仕事をしているのか、インタビューした。するようになった。

2年生 わくわくドッキン かりやどランド
(生活科10時間 特別活動2時間)

子ども祭り「ファンタジーフェスティバル」(2年生・秋の学校行事)で、1年生と協力して、自分たちで遊びやルールを考え、お客さんが楽しめるような遊びのコーナーを

グループで分担して作った。当日は幼稚園、他学年、地域の人々等、様々な立場の人とかわわりを持つことができた。

3年生 地域の人とあしくしゅ I
―商店街でお手伝い―

(総合的な学習の時間 25時間)

町へ出かけ、店、工場、公共施設、交通などの町の様子や特徴について調べた中で、子どもが自分の住む地域のことにおもしろい目をつけていないという実感が見えてきた。そこで、地域の商店の協力を得て商店での体験学習を計画し、社会科の学習を踏まえて展開した。

商店での手伝い体験は、学校や家庭以外の人とのかわり方を学ぶ場としてとらえられ、商店の人やお客さんとの触れ合いを通して、自分の住む地域のことを理解し、地域の一員としての自覚を養っていくとともに、商店で働く

広島県庄原市立西城小学校

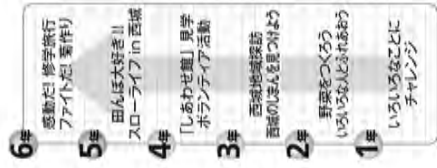
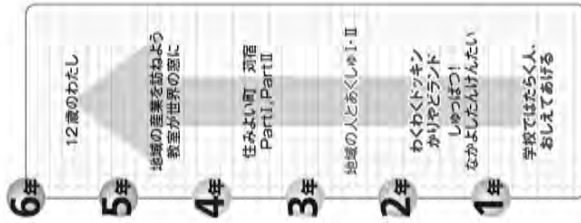
地域の食文化を生かしたキャリア教育の取組と、学習成果の把握の工夫

3年生 西城のじまんを見つげよう
―「ひばごん井」を作ろう―

(総合的な学習の時間 17時間)

1970年に地元に出発したとき、おちまを駆りかえしたおちまの生き物「ひばごん井」から命名された。地元の食材たっぷりの創作料理「ひばごん井」、ゲストティーチャーを招いて「ひばごん井」を作ることを通じて、地域の食文化への理解と地域への愛着心を高め、仕事に対する理解を深める活動を展開した。

国語科・社会科等との関連を図りつつ、「西城の地域じまんマップを作る」「ひばごん井のひみつをさがそう」等に合計5時間を通して、「ひばごん井」づくりに2時間を充てた。これらの学習のまとめとして「学びをひろげよう」(6時間)により、パンフレットづくりを行った。



東京都三鷹市東第四小学校

社会教育施設を活用したキャリア教育の取組と、課題探究型プログラムへの発展

5年生 写真展から社会をのぞこう
(総合的な学習の時間 20時間)

地域の人々とのかわりを通して社会を身近に感じ、仕事をすることの意味や楽しさ、苦しみや困りなど実感の伴った理解につなげる単元。

三鷹市美術館ギャラリーにおいて開催される写真展を通して、美術館が企画する展覧会には多くの職業の方がかわり、様々な思いや苦しみ、準備を経て企画されていくことを知り、生き方を学ぶ活動である。

はじめに、テーマを追究し写真展を企画する学芸員の方や、展覧の企画において写真展の開催を裏から支える様々な職業の方(制作会社、デザイン会社、印刷会社)とのかわり合いの場を設け、写真展やそれにかかわる職業に興味を持たせた。同時に、子どもたちが自らに校内で写真展を開く計画

を立案させる中で、校内写真展と自己のかわりや共通点を持たせ、チャレンジする意欲の継続につなげた。この過程では、学芸員や写真家の方からアドバイスを得ながらテーマと役割を決め、それぞれに課題解決できるようにした。



小学校におけるキャリア教育をめぐる9つの疑問にお答えします



なぜ小学校からキャリア教育が必要なのですか？

小学校段階は、社会人として必要になる自立性や社会性を育て、一人一人の子どもたちがそれぞれの進路を探索・選択する力を培う上で、重要な基盤を形成する大切な時期だからです。

ただし、小学校におけるキャリア教育は、具体的な将来設計を立てることを目指すものではありません。学級・学年・学期・地域社会等における様々な活動を通して、将来設計の基盤となる「夢や希望」をほぐし、目標の達成を目指して工夫し努力することの大切さを体得させ、自信や有用感を高める機会を計画的に設けていくことが大切です。子どもたちが将来に不安を感じたり、学校での学習に自分の将来との関係で興味が見いだせず、学習意欲が低下し、学習習慣が確立しないといった状態が指摘される今日、キャリア教育の必要性はますます高まっています。

また、特に小学校では、豊かなキャリア教育の実践によって、愛着や友達、身近な地域の人々への関心や信頼感を高め、多角的な視野から他者を理解するための基盤となる力を養い、人々が自らの責任を果たすにつれ相互に支え合っていくような集団や社会を築いていく事業に導かせる必要があります。また、子どもたち一人一人がそのような集団としての学校や家庭、ひいては社会の重要な一員であることを、実感を持って理解できるようにすることが大切です。

文部科学省による「平成20年度全国学力・学習状況調査」が示す次の結果も、小学校におけるキャリア教育の重要な点



「将来の夢を持っていますか」という設問に対して小学生の約68%が「当てはまる」と回答したのに対し、中学生では約43%と25ポイントも減少しています。この結果からは、心身の成長にしたがって、強い関心を持ち、夢が空想的であったことに気付くものの、それに代わる目標を見いだせずにいる中学生の姿が浮かび上がってくるようです。

小学校では、現実社会で活躍する多様な職種がある大人に接する機会を設けたり、様々な職業の存在を気付かせたりしながら、広い視野から社会や職業をとらえる力を養いたいものです。空想的な夢に代わって、自らの将来につながる希望や目標を築くための力は、小学校からの継続的なキャリア教育によっていくまされることがではないでしょうか。



キャリア教育の「キャリア」とは何ですか？

キャリア教育の推進に関する総合調査研究協力者会議は、「キャリア」を「個人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連続的かつその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの期間」と定義しました(平成16年)。ここでは、特に重要な「個人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連続」に注目して説明します。

このパンフレットをお読みの方にも、「教育」として学校に期待される点として、例えば、お子さんに与える「役割」であり、「果たすべきこと」としての「夢」や「目標」を、お子さんから「抱かせる」こと、さらには「内面的な成長」や「ボランティアサークルの会員」ということも含めて、キャリア教育の推進に協力していただくことをお願いいたします。



「キャリア教育は新しい教育活動ではない」と言われますが、これは「これまでどおりの教育でよい」ということですか？

小学校では、各教科や道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動において、子どもたちのキャリア発達を促す内容が多くあります。それぞれの機会を計画的に活用していきたいでしょう。また、それぞれの教育活動の中に組み込まれたキャリア教育の取り組み(「断片」を振り返り、結び、つなげる)が、子どもたちの認識や理解を広げていく働きかけを、道徳の時間や学級活動、総合的な学習の時間などにおいてしていくことが大切です。

「キャリア教育」は、教育活動の場や、単元の1つではなく、教育活動全体に働きかけしていくという考え方が大切である。小学校では、既存の教育活動のなかにキャリア教育の視点で関連する内容が数多くある。それらをキャリア教育の視点で関連づけていくことで、それぞれの活動の関連が明確になる。学習指導要領が示すキャリア教育の視点を見直し、キャリア教育の視点を取り戻すことが大切である。



小学校でのキャリア・カウンセリングはどのようなものですか？

キャリア・カウンセリングという言葉からは、中学3年生、高校3年生に行われる卒業後の進路決定の相談を思い浮かべるとしてもよい。実際にはほとんどの相談を思い浮かべるとしてもよい。実際に入る前に、キャリア・カウンセリングを正確に理解しておくことが大切です。

学校におけるキャリア・カウンセリングは、発達過程における一人一人の子どもの個性や特徴を生かして、学習生活における様々な困難を解消し、建設的に解決していくことを通じて、問題解決の力や態度を鍛えさせ、自立的に生きていくことができることを目指しています。これはキャリア教育の目標と一致しています。また、キャリア・カウンセリングは、つまり教師と児童、生徒との建設的なコミュニケーションを手段とするのが特徴です。

小学校でのキャリア・カウンセリングの実践は広まるとは、高学年から考える必要ががあります。



広義の実践とは、小学校がこれからは長く学校生活の基盤として、学校や教師への信頼、そして学ぶことへの喜びを体験する大切な時期であるという認識に立ち、教師がそれぞれの子どもたちの存在を尊重して適切な人間関係を築くことを意味します。子どもたちとの適切な教育的な人間関係を築くためには、教師は一人一人の子どものコミュニケーションを図る能力を向上させることが不可欠となります。

狭義の実践とは、子どもたちが新たな環境に移行したり未習得の学習課題に取り組み始める際には不安や迷いを引き起こしやすくなることを意識し、思い不安の解消や問題解決だけでなく、新たな環境や課題に意欲を持って取り組むことを目指すこととした教師の支援のことです。キャリア発達支援そのものと言えましょう。例えば、小学1年生は初めての学校生活に不慣れなために運動や授業を経験する時期です。どの学年でも学年始め・学期始めや学年末・学期末には新学期や新学期への適応で困難を経験する時期です。特に6年生は中学校進学という大きなステップを乗り越える準備のときでもあります。中学校へ進学を持って進めることを目標とした個別支援は不可欠です。



子どもたちが、将来、社会的自立・職業的自立を図るためには、小学校、中学校、高等学校において、一人一人が発達課題を段階を越えて達成していくことが重要です。キャリア教育の「視点」とは、将来の成長の自立・職業的自立を念頭に置きながら、子どもたちの成長



よく「キャリア教育の視点で」と言いますが、この「視点」とは何が教えてくださいますか？

子どもたちが、将来、社会的自立・職業的自立を図るためには、小学校、中学校、高等学校において、一人一人が発達課題を段階を越えて達成していくことが重要です。キャリア教育の「視点」とは、将来の成長の自立・職業的自立を念頭に置きながら、子どもたちの成長



よく「キャリア教育の視点で」と言いますが、この「視点」とは何が教えてくださいますか？

子どもたちが、将来、社会的自立・職業的自立を図るためには、小学校、中学校、高等学校において、一人一人が発達課題を段階を越えて達成していくことが重要です。キャリア教育の「視点」とは、将来の成長の自立・職業的自立を念頭に置きながら、子どもたちの成長

小学校におけるキャリア教育をめぐる 9つの疑問にお答えします



職場見学などの体験活動をするのがキャリア教育ですか？

いいえ、そうではありません。

体験活動はキャリア教育を推進する取組の一つとして位置づけられます。キャリア教育は、教育活動全体を通じて、将来子どもたちが社会の一員としての責任を担い、社会的な自己実現を図ろうとする意欲や態度を継続的に育てていくものです。

体験活動には、達成感や満足感を得ることによる自信や

自己有用感の獲得、働くことや学ぶことへの意欲の向上など様々な効果が期待できます。

その効果を発揮させるためには、体験活動を「目的のもの」に留めず、振り返りや振り返りを通して、他の教育活動と関連付けたり、事前事後の指導を工夫したりすることが重要です。



キャリア教育のねらいは4つの能力（人間関係形成能力、情報活用能力、将来認識能力、意思決定能力）を伸ばすことでしょうか？

これら4つの能力は、概的に、社会的自立を促す上で必要な能力であると考えられ、生涯の段階を

通って育成されるものです。これらは、キャリア教育を通して身に付けさせる様々な能力の重要な例としてとらえることができます。

各学校では、これら4つの能力を参考にしながら、学校や地域の特性、子どもたちの実情に応じて、身に付けさせる能力を重視することが大切です。検討の基盤について学校全体で共通理解を図ることにより、効果的にキャリア教育を進めることができるとは思います。



キャリア教育の評価はどうすればよいですか？

二通り考えられます。

一つは、学習や能力、態度を意識しながら「子ども」の姿や「成長・成果」を評価すること、そして、それに

基づいて「活動そのもの」を評価することです。前者については、主観評価が一人一人の存在をしっかりと見取っていくことが大切です。ポートフォリオやアンケート、評価カード等を工夫しながら、一人一人のよきやまを

を把握し、その結果はできるだけ子どもにも返していきたいものでしょう。また、自己評価によって子ども自身が自らの成長を実感できることも大切です。

後者については、このような子どもたちの成長を促した要因は何か、あるいは、成長に結びつかなかった理由は何か、焦点を当てながら実践を振り返り、キャリア教育の取組をPDCAサイクルの中で改善していくことが必要です。



私が勤務する学校ではまだキャリア教育に取り組み始めていません。

キャリア教育はどのように始めたらよいですか？

まずは、一人一人の先生方がキャリア教育を正しく理解することから始めましょう。そのために、このパンフレットを職員会議や学年会などで是非活用してください。そして、学校全体でキャリア教育に対する共通理解を固め、それに基づき、担当学年や各教科等において、どのようなキャリア教育に取り組めるかを検討し、でき

ることから実践に移してください。キャリア教育は、目指していることからスタートさせる必要はありません。各学校での教育活動をキャリア教育の視点でとら直し、積極的に取り組んでいきましょう。国立教育政策研究所・生涯学習研究センターのホームページに掲載の実践事例なども是非参考にしてください。

【作成協力委員】

- 小山浩志 神奈川県川崎市立羽根小学校教諭
- 川崎友樹 関西大学社会学部教授
- 佐々木健朗 千葉県千葉市立東郷本郷中学校教諭
- 塚田直 茨城県成田市立平小学校教諭
- 富本伸明 東京都品川区立小川第一小学校教諭

制作協力委員

- 西田健太郎 兵庫県教育委員会事務局課長
- 二見明子 神奈川県大和市教育委員会教育研究家所指導主事
- 沼内口まゆみ 富山県水見町立宇津野小学校教諭
- 和田るみ子 成瀬県政理市立平田小学校教諭
- 渡辺三枝子 筑波大学特任教授（キャリア支援室長）



文部科学省
国立教育政策研究所
National Institute for Educational Policy Research

〒編集：発行・生涯学習研究センター
TEL 03-6733-6882 FAX 03-6733-6967
URL http://www.nier.go.jp/O4_kenkou_jinmai/div09_shido.html

